

経済再生と新産業創出の  
モデル拠点となることを目指して  
関西発！経済再生拠点化計画  
～関西メガ・リージョン活性化構想～



経済産業省近畿経済産業局長 平工 奉文

昨年の米国発の金融危機を背景として、世界的に経済が停滞する中で、我が国においても当面厳しい経済情勢が続くものと予想されています。

一方で、このような経済情勢の時にこそ、次なる成長に向けた戦略をしっかり持ち、その実現のための行動計画に基づく取組を行うことが非常に重要であると考えています。

少子高齢化の進展や資源・エネルギー制約の高まり、地球環境問題に対する対応の必要性等の環境変化に加え、経済のグローバル化に伴う国境を超えた地域間競争の激化など、地域経済を取り巻く環境は、ますます厳しいものがあり、地域が中長期的に持続的な成長を実現するための方策が求められています。

この度、島田晴雄千葉商科大学長を委員長とする産学官の有識者によりとりまとめられた「関西発！経済再生拠点化計画～関西メガ・リージョン活性化構想～」は、我が国有数の歴史と文化を誇ると共に、加工から素材まで一貫した幅広いモノ作り産業の集積や産業インフラ、優れた大学や研究機関、豊富かつ高度な人材、観光資源を始めとする地域資源など、高いポテンシャルを有する関西地域が、広域都市圏（メガ・リージョン）として「世界経済再生と新たな産業創出のモデル拠点」となるための基本戦略としてまとめられたものです。

本計画の大きな特徴は、単にビジョンの提示にとどまることなく、構想を実現するための

具体的な取組として、46のアクションプランが示されていることです。

一部をご紹介いたしますと、関西が最大限に強みを発揮できる分野として、情報家電等の次世代ものづくり、環境・エネルギー、健康長寿、コンテンツ・観光の4分野を挙げていますが、健康長寿の分野においては、バイオベンチャー企業の研究成果の事業化を促進するためのバイオ医薬品製造センターの設置をあげています。

また、コンテンツ・観光の分野では、演劇等の当日券の割引販売を行う「日本版TKTS(チケット)」の設置による文化産業の振興などをあげています。

インフラ面の整備については、関西国際空港の利便性向上による利用促進を図るため、大阪都心部へのアクセスの大幅改善（関空－大阪駅間30分構想の実現）などをあげています。

これらのアクションプランについては、すでに一部取組が始まっているものもありますが、今後は、国、自治体、経済界等の関係者が一丸となって、関西が経済再生のモデルとなるよう、その実現に向けて取り組んでいくことが重要であると考えていますので、引き続き御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。